

漢字かな交じり文を書く(11)

締切り 十一月二十四日(必着)

遠	遠	そ	ふ	い	帰	う	よ	そ	ふ
き	き	の	る	と	る	ら	し	し	る
み	み	こ	さ	り	と	ぶ	や	て	さ
わ	や	こ	と	都	こ	れ		悲	と
こ	こ	ん	お	の	ろ	て		し	は
に	に	も	も	ゆ	に	異		く	遠
か	か	て	い	ふ	あ	土		う	き
つ	つ		涙	ぐ	る	の		た	に
ら	ら		ぐ	れ	よ	乞		ふ	あ
ば	ば		む	に	じ	食		も	り
わ	わ				や	と		の	て
						な			思
						る			ふ
						と			も
						て			の
						も			

奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。

団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎原稿用紙に美しく整えて書くことは、簡単なようで中々難しいものです。硬筆部検定試験教範コースに小論文課題がありますが、「この課題だけでも、本当の実力がわかる」とさえ言われます。

◎原稿用紙には、文学的な一種独特の雰囲気がある、作品創りの何か新しい発見につながるかもしれません。

◎今回の課題は、十行の原稿用紙には落款がうまく入りませんので、欄外に収めて下さい。

※出典 室生犀星 「小景異情」

□作品の出し方

▼硬筆部Ⅱ原稿用紙以外の場合は、B5判以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

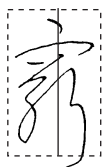
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

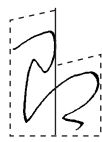
〔読み〕 窮すれば即ち変じ 変ずれば即ち通ず 易教

窮

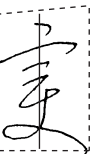


即

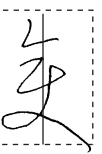
同字は変化



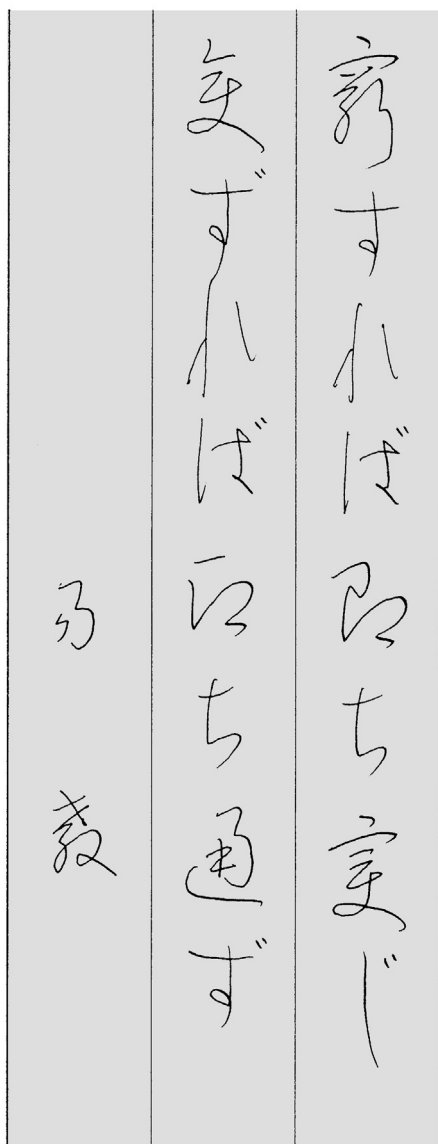
変



通



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。
目習いで文字を確実に把握して、字形のくずれぬ速さで書くようにする。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

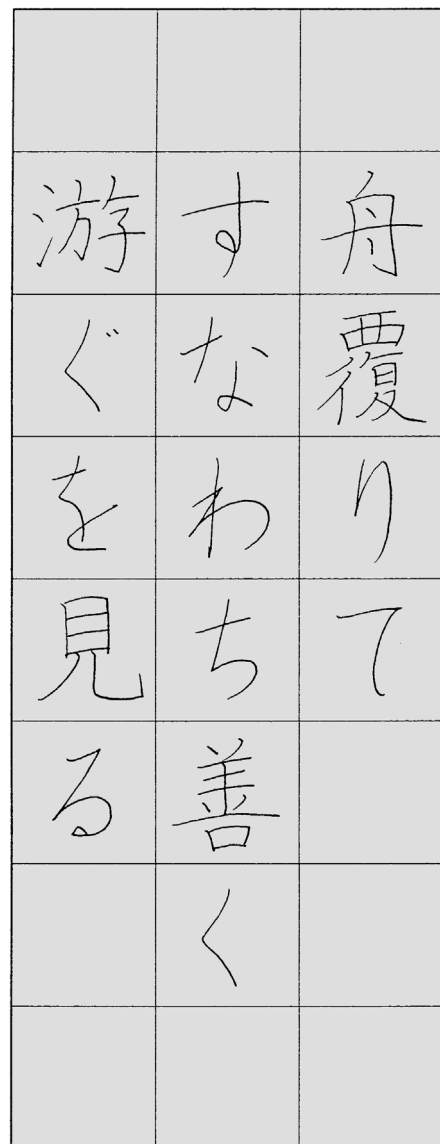
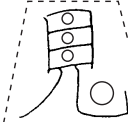
点のうち方に注意



横画は平行に



台形に



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼師範＝行書

▼教範・書範＝行草または草書

ダ・ヴィンチ

実践は兵である

科学は将校であり

◆12月課題予告（楷書）

★窮すれば：（書体＝行草または草書）
『易教』 中国五経の一つ。元来、占いに用いられた。
人は窮地に追い詰められると、とことん悩んだ挙句に、ふと開き直ることがあります。（変ずる）そうすると、自分以上の力を発揮し、意外な打開策を見出すことができるのです。（通ず）
「開き直る」ということも、人間に与えられた大切な能力の一つなのです。

人窮すれば
則ち本に反る
史記

◆12月課題予告（行書）

★舟覆りて：（書体＝楷書）
『淮南子』 中国、前漢の淮南王劉安（？～前二三）編著の哲学書
舟が転覆してはじめて、泳げる人かどうかわかります。
平穩無事な時に、人の真価、實力はわかりません。困難にあった時に、はじめてその人の能力がわかるのです。
人は様々な困難を乗り越えて成長し、逆境にも打ちかつ力を得られるのです。

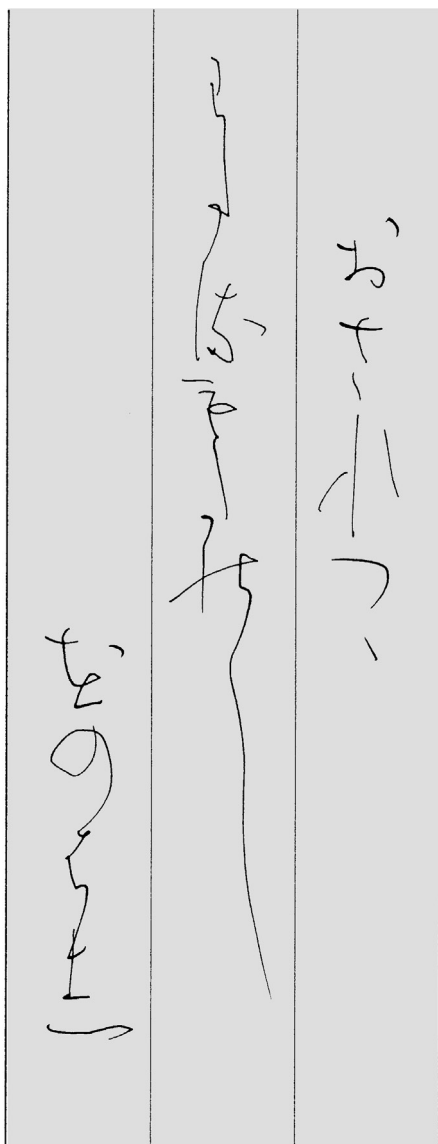
一般部かな課題

締切り 11月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

押されつつ渡るも楽し花の橋

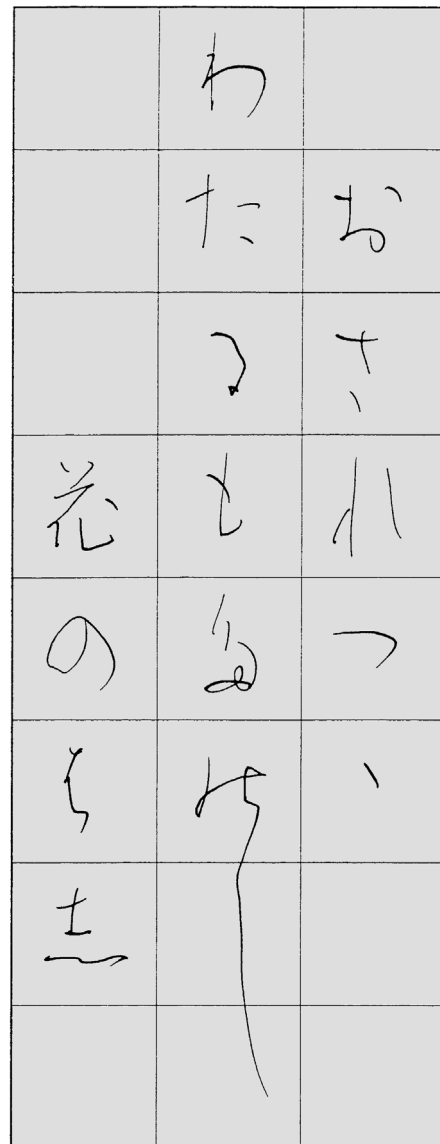


児玉知泉先生書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

押されつつ渡るも楽し花の橋



児玉知泉先生書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆12月課題予告

木がらしや目刺にのこる海のいろ

(芥川龍之介)

志し 流る 多た 王わ

し 流 り 王

し 流 り 王

し 流 り 王

角川携帯かな字典より

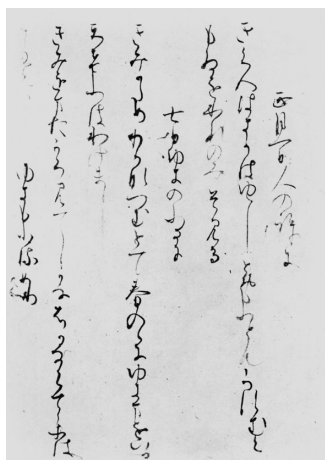
〔古筆参考〕

〔句意〕桜がいまや満開である。多くの人々が花見に出て、ごったがえしている。橋を渡り人々におされながら行くのもまた楽しい、の意。のどかな春の情景である。

押されつつ渡るも楽し花の橋
(増田手古奈)

〔古筆参考〕

いずみ しき ぶ ぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



正月一日人の許に^尔

きく人はきかばゆゝしとおもふともかすむく

もるをわれのみぞみる^見

七日ゆきの^支ふるに^尔

きみがためわかなつむとて春のゝにゆきまをいか

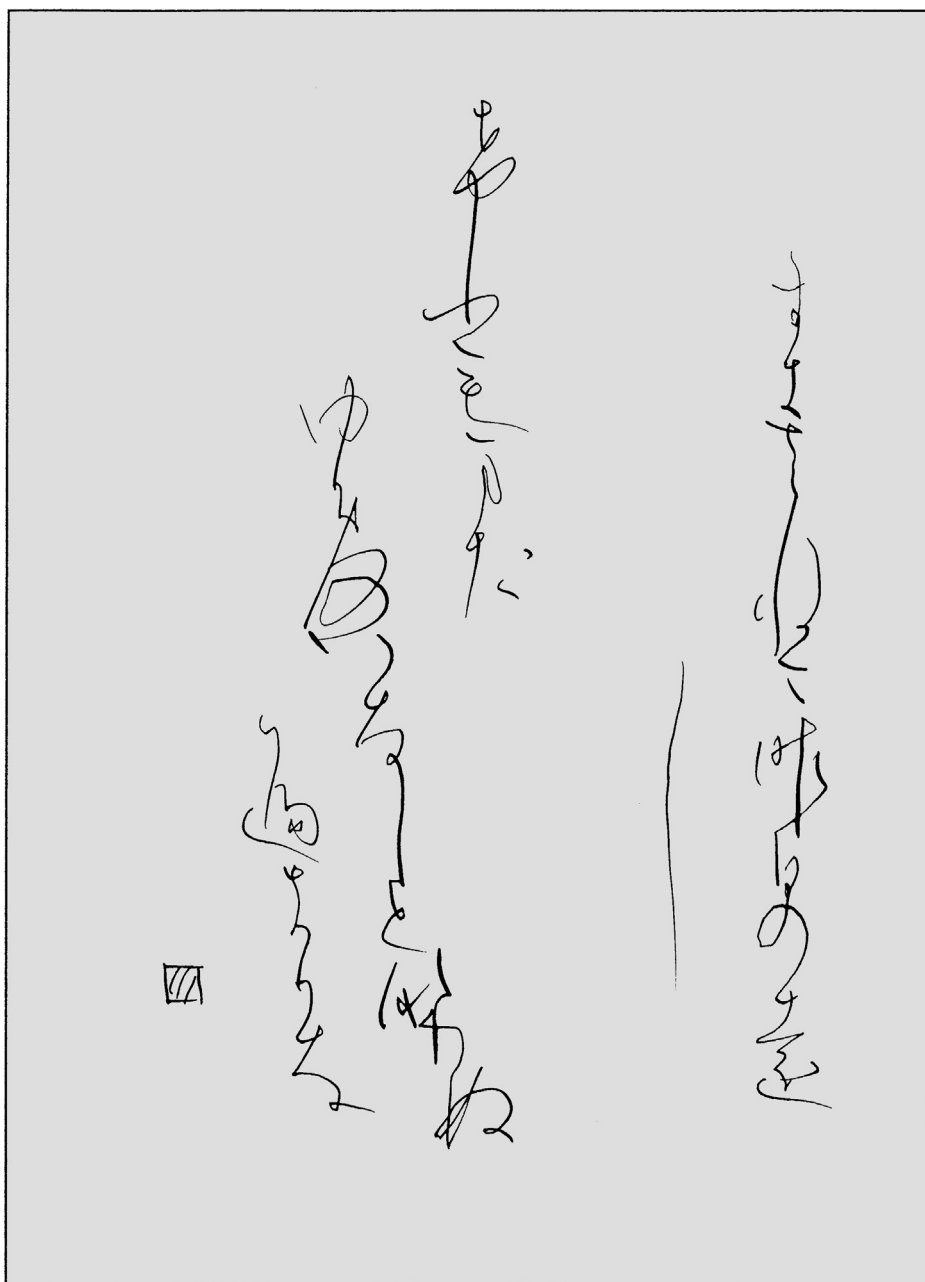
で天希けふはわけまし

きみをまたかくみてしかなはかなくてこそは

支^きえにしゆ^きもふる^{めり}

締切り 十二月二十四日（必着）

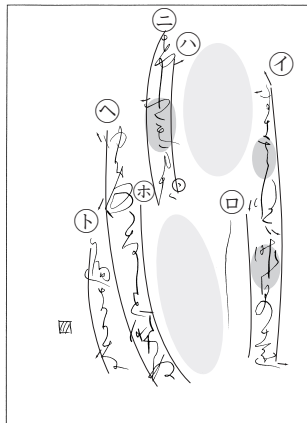
築瀬舟香書



過ぎ去れば昨日の遠し今日もまた
夢の話となりぬべきかな

〔歌意〕過ぎ去ってしまふと昨日も遠いことのようにです。そのように今日という日もまた夢の話のように遠くなってしまうのでしょうか。

〔出典〕 名歌即訳 与謝野晶子



①とへ、②とへ、③とへ、④とへ、
 ⑤とへ、⑥とへ、⑦とへ、⑧とへ、
 ⑨とへ、⑩とへ、⑪とへ、⑫とへ、
 ⑬とへ、⑭とへ、⑮とへ、⑯とへ、
 ⑰とへ、⑱とへ、⑲とへ、⑳とへ、
 ㉑とへ、㉒とへ、㉓とへ、㉔とへ、
 ㉕とへ、㉖とへ、㉗とへ、㉘とへ、
 ㉙とへ、㉚とへ、㉛とへ、㉜とへ、
 ㉝とへ、㉞とへ、㉟とへ、㊱とへ、
 ㊲とへ、㊳とへ、㊴とへ、㊵とへ、
 ㊶とへ、㊷とへ、㊸とへ、㊹とへ、
 ㊺とへ、㊻とへ、㊼とへ、㊽とへ、
 ㊾とへ、㊿とへ、
 それぞれ呼応。

注意。一行の中の密の部分。密の動き

○ 大きな間大切。
 ↙ の方向・○の位置注意。

和泉式部続集切の中の「間」

和泉式部続集切(図版参照)を見る
と墨量もあり、連綿線の多い部分の左
右に余白がしっかり作られている事が
わかります。高野切第一・二種・寸松
庵色紙・関戸本古今集といった古筆は
文字の中に間がありますが、和泉式部
集では見当たりません。それは文字の
連綿が多くなっただけで、そのかわりに
行間に間を作っているのです。

◆12月課題予告
しらとり

白鳥あさゆふが生すいみせんたるものの心地して
朝夕めづる水仙の花

締切り 11月24日(必着)

裏山の木々が色づき、秋も暮れて
ゆきます。そんな中でも遅蒔きの
コスモスが、霜が降りるまでの短い
命を咲き誇っています。これから
花壇の後始末やモミ殻焼きなどの
冬支度でせわしい日々が続きます。

裏山の木々が色づき、秋も暮れて
ゆきます。そんな中でも遅蒔きの
コスモスが、霜が降りるまでの短い
命を咲き誇っています。これから
花壇の後始末やモミ殻焼きなどの
冬支度でせわしい日々が続きます。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

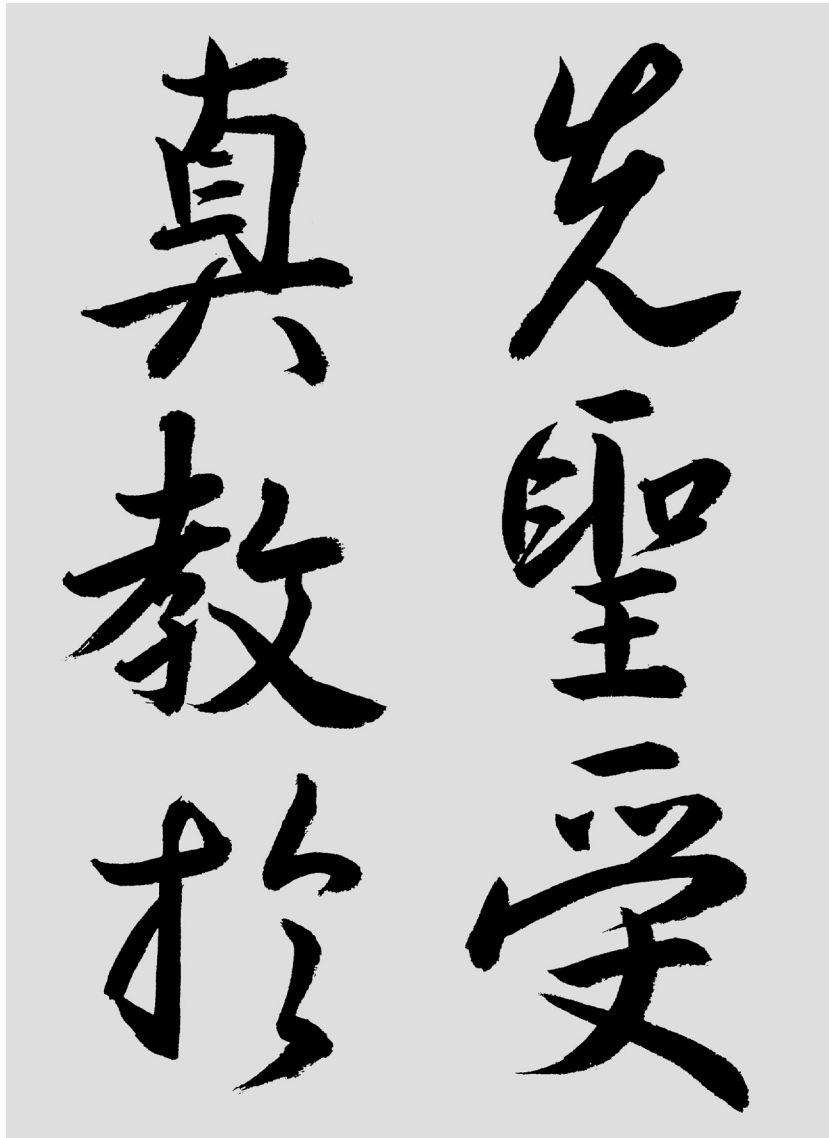
横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

文字の基本は点と線であり、その
組み合わせで字形が決まります。

高知県安芸市 氏 名

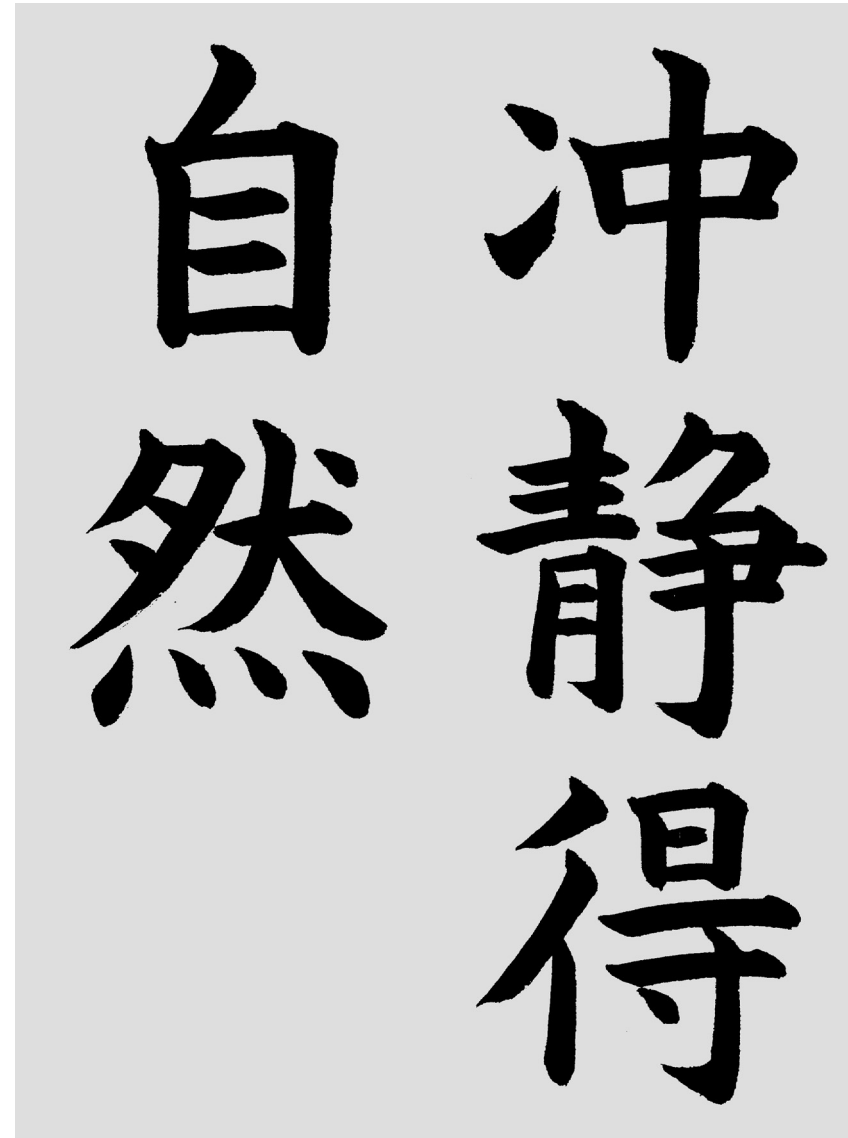
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。



〔出典〕集字聖教序（672）〔筆者〕王羲之書より集字
〔読み〕（至言を）先聖に（承け、）真教を（上賢に）受け、

準初段から師範まで

奥村暢之臨



〔読み〕冲静自然を得。
〔大意〕落ち着いて静かに人工の加わらぬ自然を得る。

新入から1級まで（楷書）

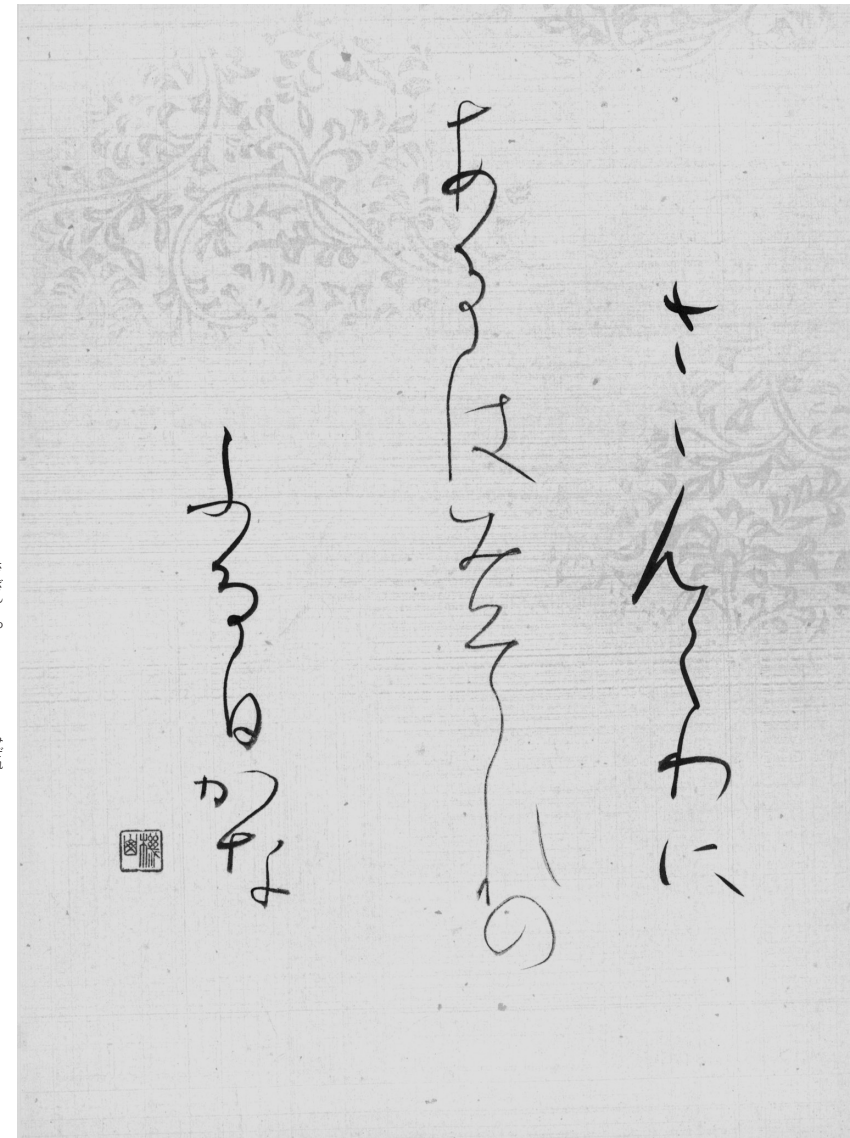
澤静雨書

一般部毛筆かな課題

締切り 11月24日(必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書

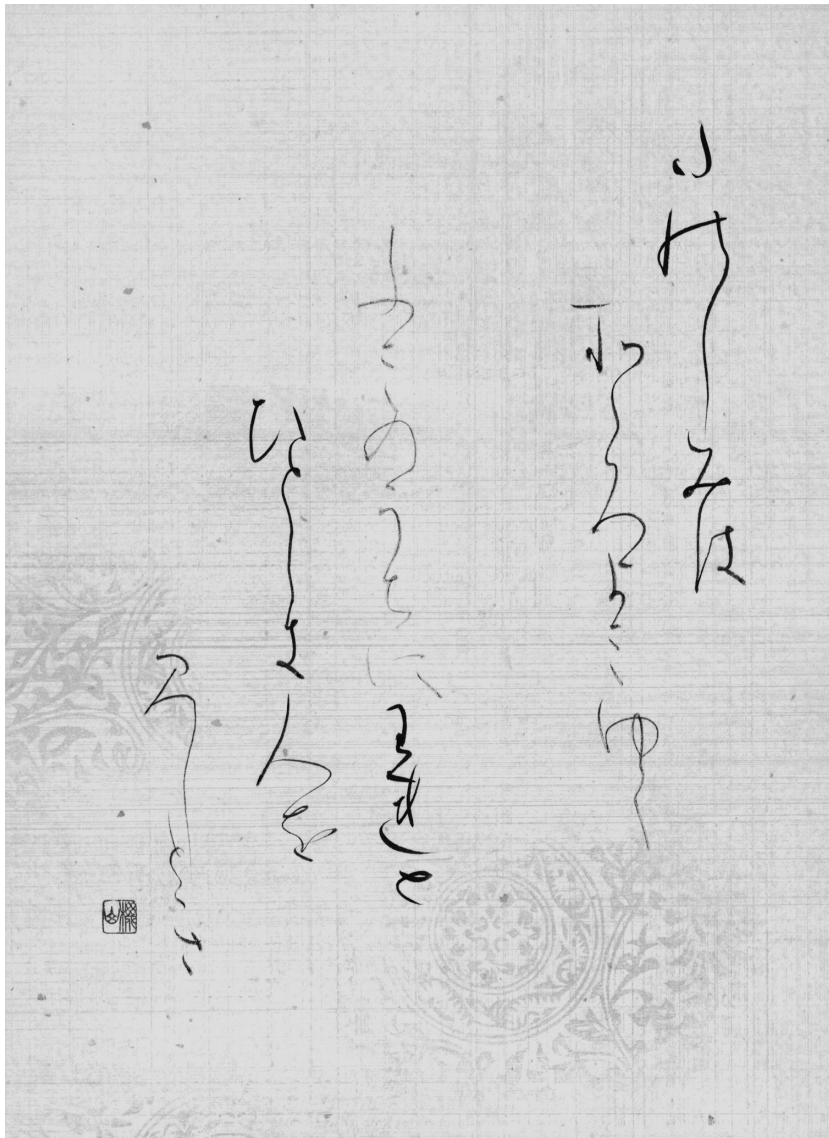


〔出典〕 河東碧梧桐

〔句意〕 雲の降る庭に、山茶花の花だけが咲いている、というのである。
初冬の静かさがとらえられた句。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

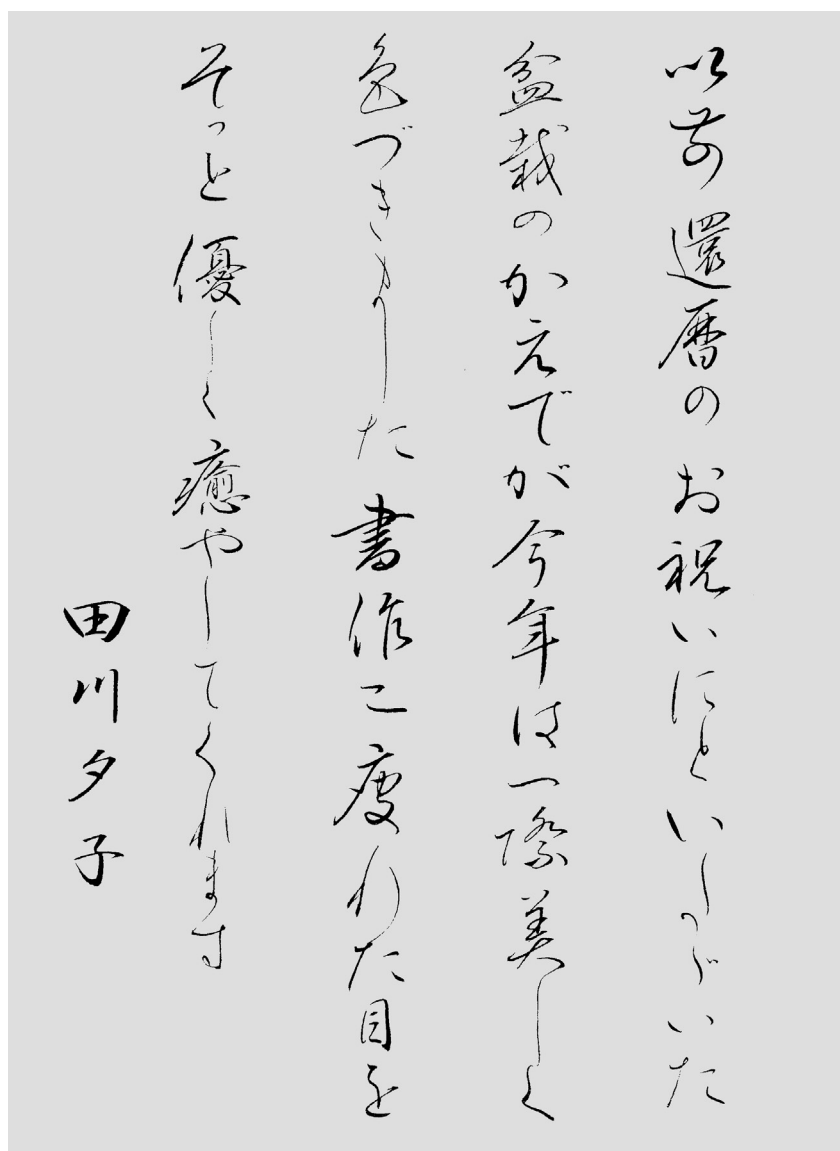


〔出典〕 橘 曙 覧

〔歌意〕 楽しみは、ただ何となく読み進んでいく本の中に、自分と同じ
考えの人を見いだした時だ。

多能 所のよ三
たのしみはそぞろ読みゆく書の中に
王連 文とき
われとひとしき人を見し時

一般部毛筆細字課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 兆 春 宮 大

- 印で墨つぎしました。
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

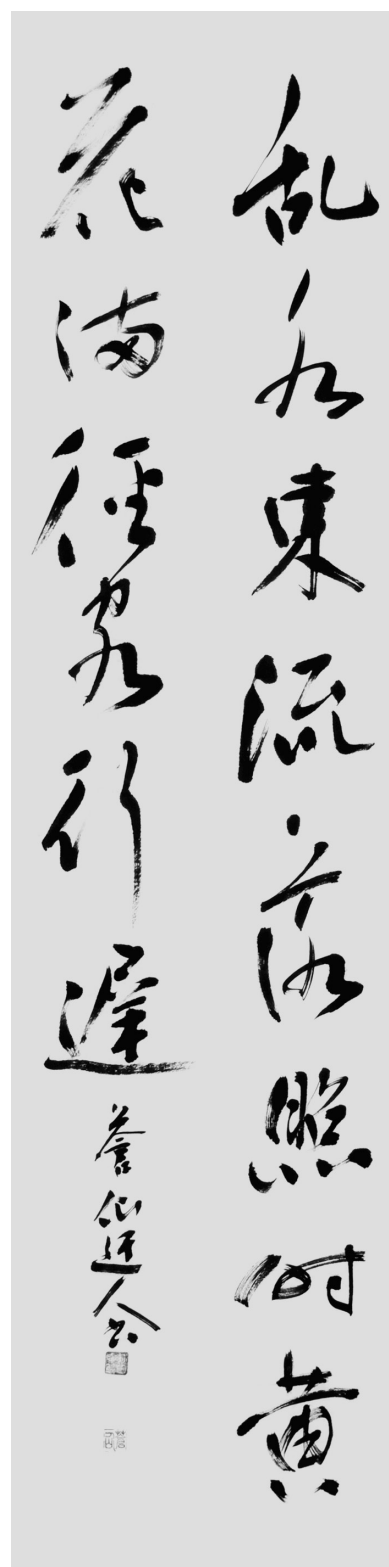
〔条幅・細字作品の出し方〕

(ご自分の氏名)

以前還暦のお祝いに書いた盆栽のかえでが今年は一際美しく色づきました。書作に疲れた目をそっと優しく癒やしてくれよう。

〔解説〕手本のある方は、自作と並べて吊り下げて見て下さい。手本のない方は、自作を並べて見て下さい。どんだん離れて見る程に長短が見えてきます。これも上達の一方法です。

一般部毛筆条幅課題

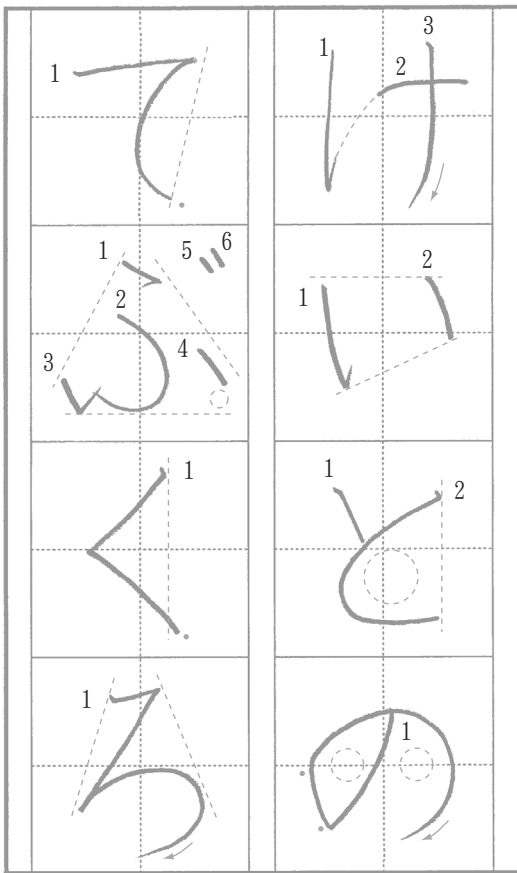


締切り 十二月二十四日(必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

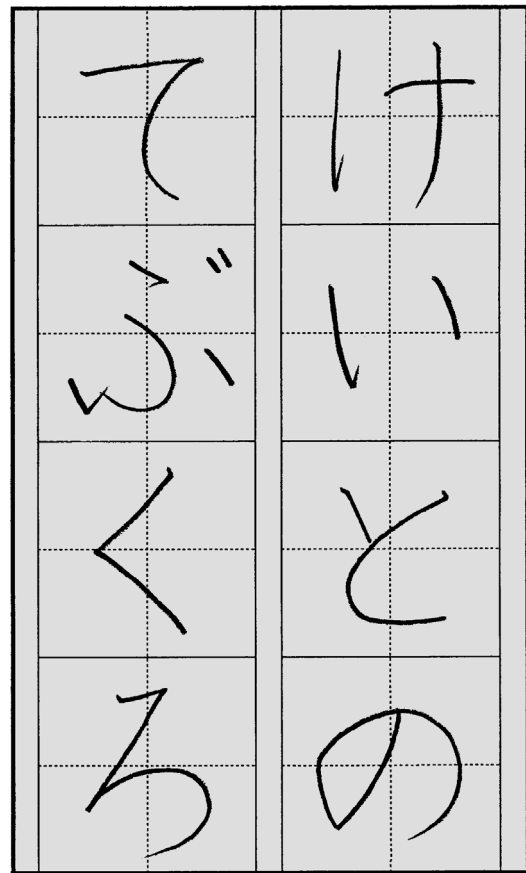
らんすいひがしにながるくしやうのとき
乱水東流落照時
かうみちにみちてきやくこおそし
黄花満徑客行遅
〔大意〕道行く人も菊の花にみとれて歩くことが遅い。落照は夕日かげ、黄花は菊花。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



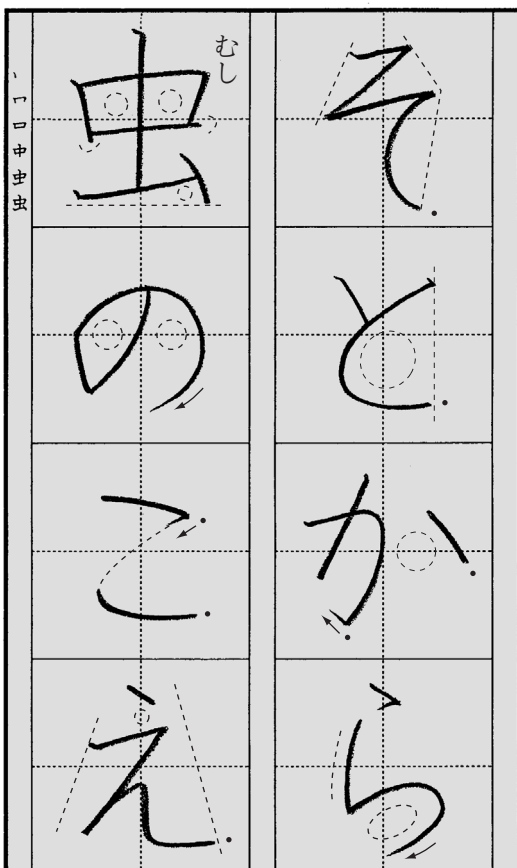
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

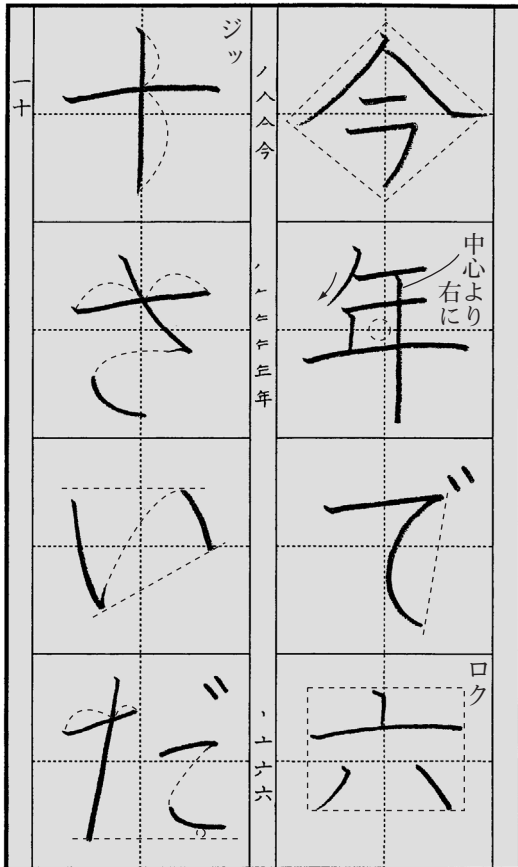
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

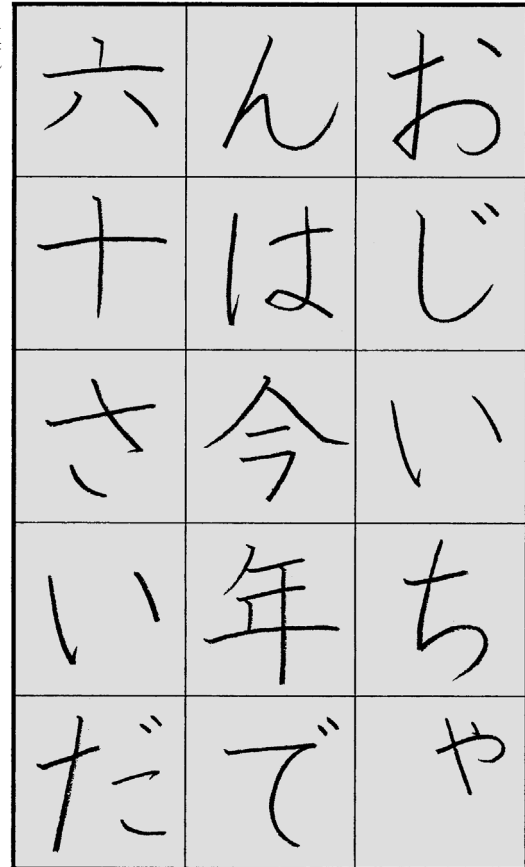
準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



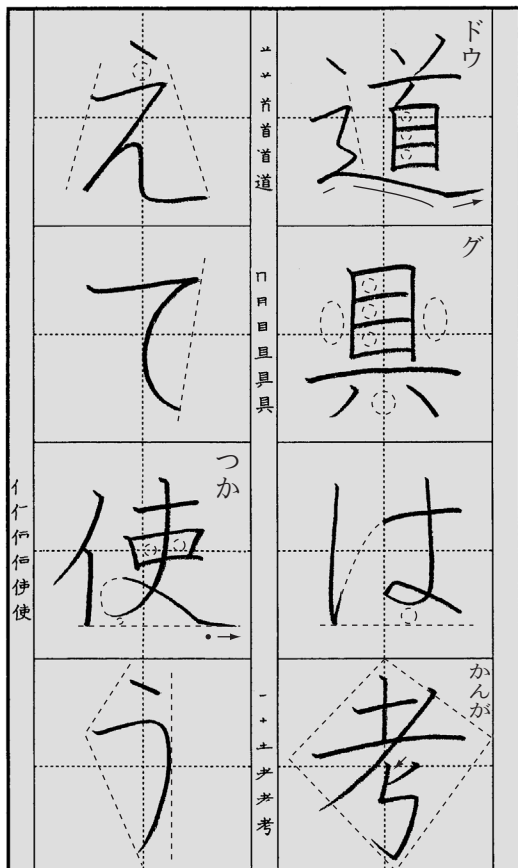
新入1級

ことし
今年＝単語としてこのように読みます。



小二年

準初段以上



新入1級

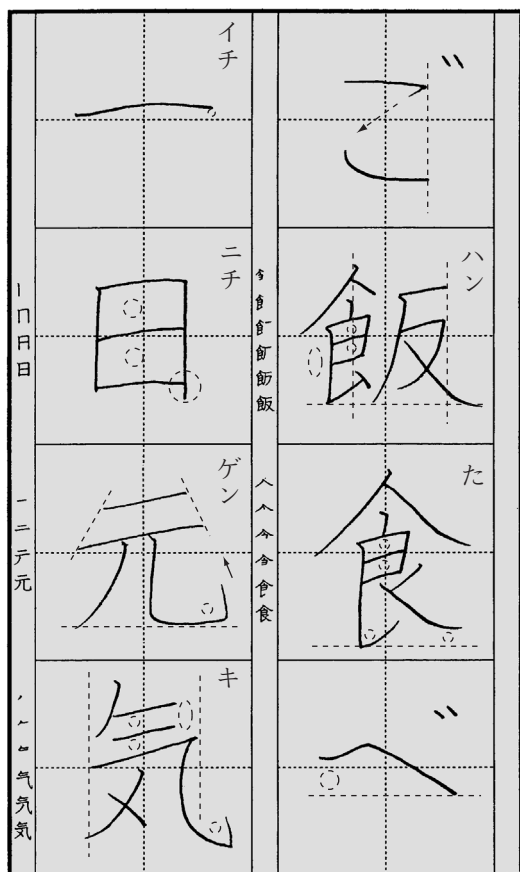
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小三年

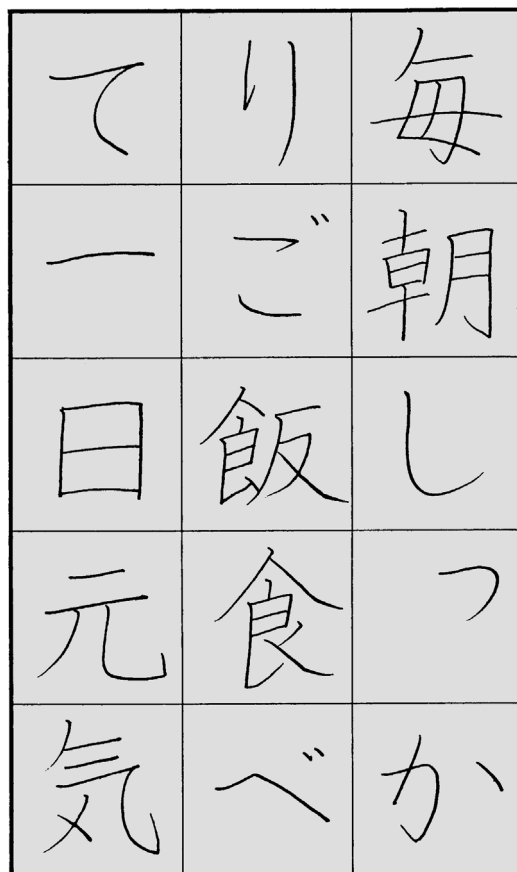
準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)



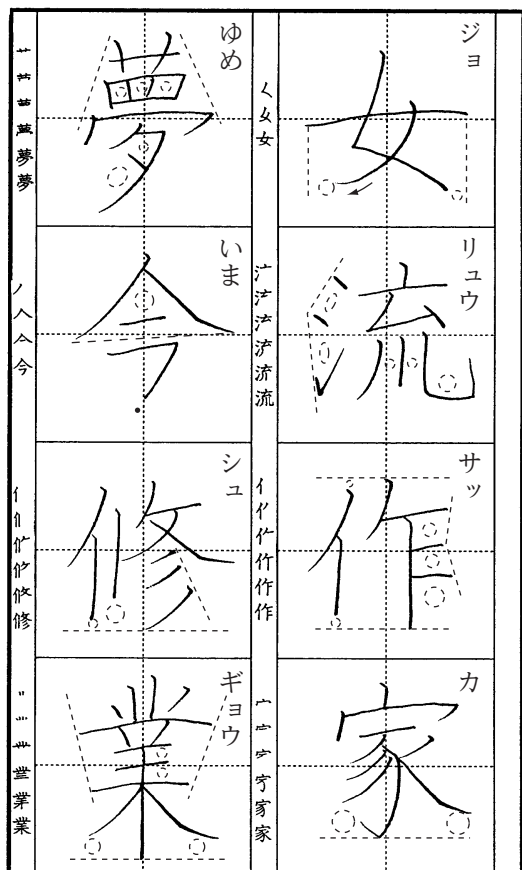
新入1級

小四年



準初段以上

小四以上 須田一葉書



解説(よく見て習いましょう)

小五年

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



(全員)

小六年

マ	整	防
ン	つ	火
シ	た	設
ヨ	高	備
ン	層	の

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

整	防
高	火
層	設
	備

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

中一年 (楷書)

達	し	万
を	て	全
目	山	の
指	頂	準
す	到	備

中二・三年 (楷書)

立	魚	放
派	は	流
に	数	し
成	年	た
長	後	稚

◎お手本は、つけペンで書きました。

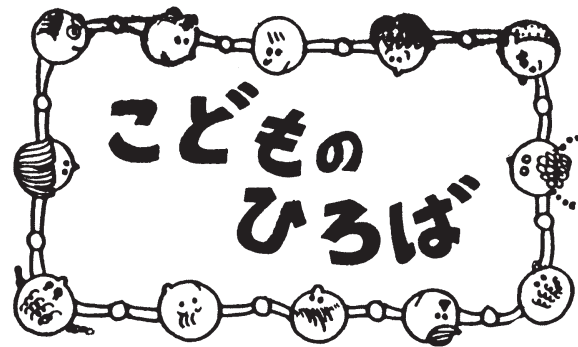
▼小三年以下の課題

伊 藤 由 光 書

い	心 こころ	実 みの	ぶ	り
っ	も	り	ど	ん
ぱ	お	の	う	ご
い	な	秋 あき	に	や
で	か	に	く	な
す	も	感 かん	り	し
		し		
		や		




◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 11月24日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

小 木 曾 花 清 書

楽 たの	疲 つか	歩 ある	巨 きょ	遊 ゆう
し	れ	き	大 だい	園 えん
か	た	回 まわ	迷 めい	地 ち
っ	け	っ	路 ろ	の
た	れ	て	を	
よ	ど			



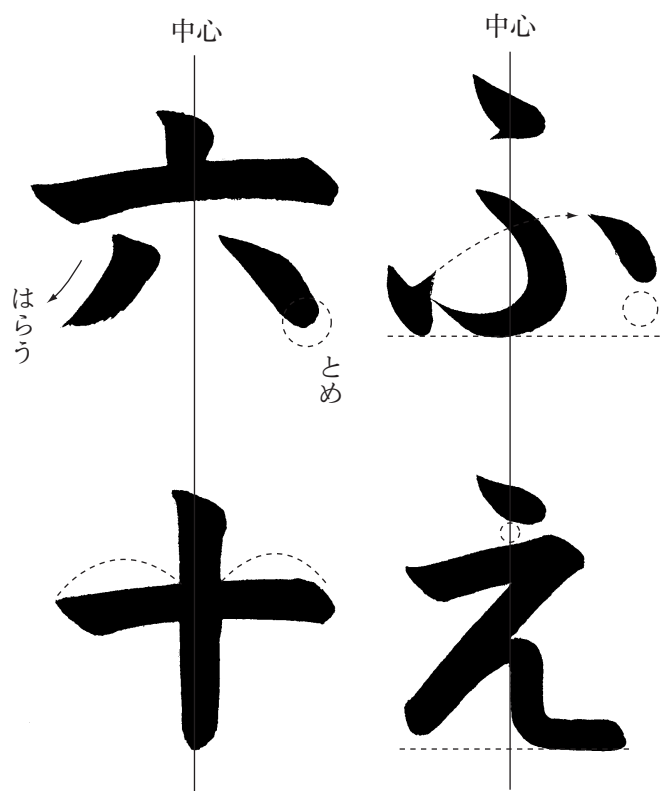
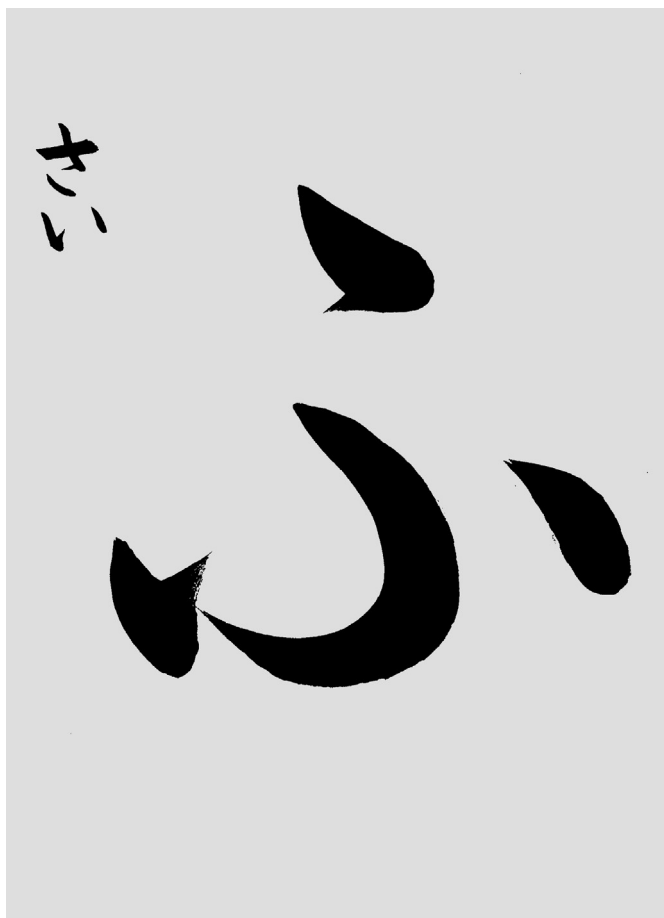

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
玉樹小
華書



小五
女作家
流

考
え
る
小三

女
流
家
考
元
気
のひのび長く
出す
1 2 3

小四
一
元
気
日

小三、小五年

水野香竹書

中二・三
放稚

流魚

小六
設防

備火

小六・中二・三年

奥村暢之書

達

稚

放

設

備

到

右上がりに

右上がりに

中二
到山

達頂